



第7回スーパースプリントデュアスロンin日産スタジアム大会

オリンピックサッカーの決勝のスタジアムにて 審判長 海野 浩



2002年FIFAワールドカップ、2019年ラグビーワールドカップ、そして2020年8月8日(土)、オリンピックサッカー男子決勝の地となる横浜国際総合競技場、通称「日産スタジアム」。日本最大規模の7万席の観客収容能力を誇る屋外多目的競技場で当大会は行われました。

今回は審判長として関わらせていただきましたが、この競技場は東扇島等の公園でのトライアスロンとは異なり、立体的に競技場を使うユニークでスリリングな大会です。一般の方も散歩やトレーニングをしていることも多いので、その方々も意識をして、前日か

らコーンの設置やコースづくりを進めました。念のために距離計測も実施しました。

寒い季節であります、大会当日は晴天。まずはキッズのスタート。黄色、青などの、チームで御揃いのTシャツを着た子も多いです。応援も熱い。”オンユアマーク”でスタートホーンを鳴らすと、アッという間に皆視界から消えて行きました。

一般の部のスタートは、トラックから。競技場に入った瞬間に巨大なフィールドに”おお”という歓声が漏れていました。パラトライアスロンの選手も、例えば視覚障害を持っている選手もガイドの選手と共に力走しました。

今回は、キッズの小学生のレースでも、トランジションエリアには本人しか入れず、親御さんには遠慮いただきましたが、皆きちんと自転車の設置などの準備をできていました。そういう独立心を育てられるのも良い点です。

競技中には、自転車を終了後にきちんと立てられず、隣の選手に迷惑をかけた選手がいました。ただ、終了後にきちんと隣の選手に謝ってくれたのも嬉しいです。あと、自転車で周回を走っている時に、同じチームで固まって走っている例もあったようですが、トライアスロンは安全や公平のために10m離れることというドラフティング禁止のルールがあるので、次回以降はこちらも積極的に声掛け注意をしようと考えています。

また、バイクの周回数を規定より多く周回してしまった選手もいました。競技中は疲労があったり、焦っていたりしますが、サイクルメーターを確認しながら競技を行うのもコツです。

素晴らしい世界的な会場での大会は、少し寒い時期ですが、次回以降さらにたくさんの選手の参加で、盛り上げたいと考えています。